

仙台・青葉山エリア 文化観光交流ビジョン

杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ
～ 特別な空間と時間を青葉山エリアで ～



令和5年3月
仙台市

目次

第1章 青葉山エリア

- 1 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン策定について・・・ 2
- 2 青葉山エリアの範囲・・・ 2
- 3 青葉山エリアの歴史・・・ 4
 - 【コラム】天然記念物「青葉山」、広瀬川・・・ 8

第2章 青葉山エリアの現状等

- 1 青葉山エリアの現状・・・ 10
- 2 青葉山エリアの特性と価値、課題・・・ 13

第3章 青葉山エリアの基本的方向性

- 1 青葉山エリアのコンセプト・・・ 16
- 2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性・・・ 17
- 3 4つの将来像の実現に向けた回遊性の向上・・・ 19

第4章 青葉山エリアの将来

- 1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方・・・ 20
- 2 ビジョンの実現に向けて・・・ 30

参考資料

- 1 本市各種計画等における青葉山エリアの位置付け・・・ 32
- 2 エリアに関するデータ・・・ 36
- 3 エリアに関するアンケート調査・・・ 37
- 4 青葉山エリアで活動している団体の声・・・ 41



第1章 青葉山エリア

1 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン策定について

人口減少や少子高齢化が進む中、本市が持続的に発展し、選ばれるまちであり続けるためには、仙台独自の個性を磨き上げ、その魅力や価値を国内外に発信していくことが必要であり、そのための重要な要素となるのが青葉山エリアである。

この場所は、仙台のはじまりの地とも言える場であるとともに、仙台市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」として、重要な拠点と位置付けられている。また、青葉山公園の整備や大手門復元に向けた基礎調査、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など重要なプロジェクトが進行している。

こうした好機にあらためて、エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性等を示すビジョンを策定し、市民はもとより国内外に発信することにより、本市全体における交流人口の一層の拡大を図る。

なお、本ビジョンは、各種プロジェクトの一定の進捗が見込まれる概ね10年後を見据えたものとする。

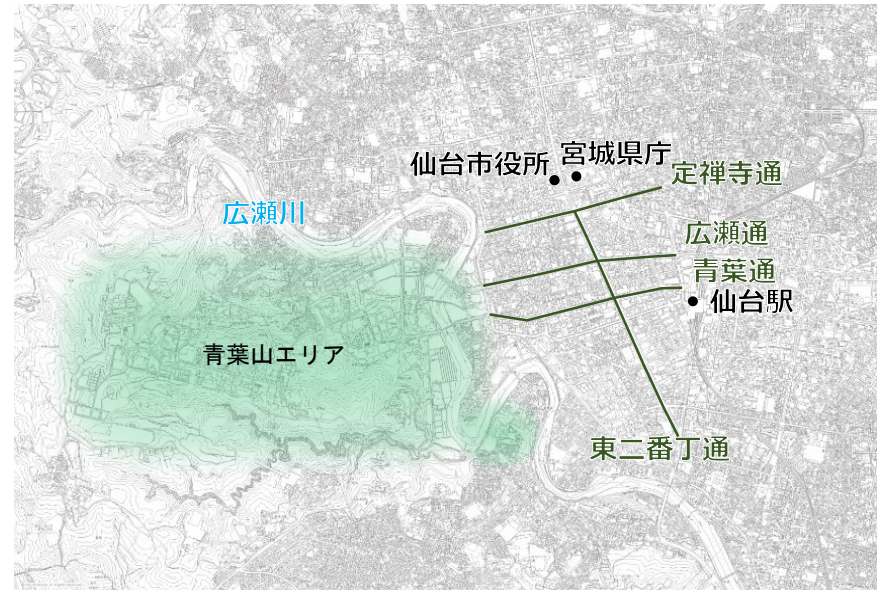
2 青葉山エリアの範囲

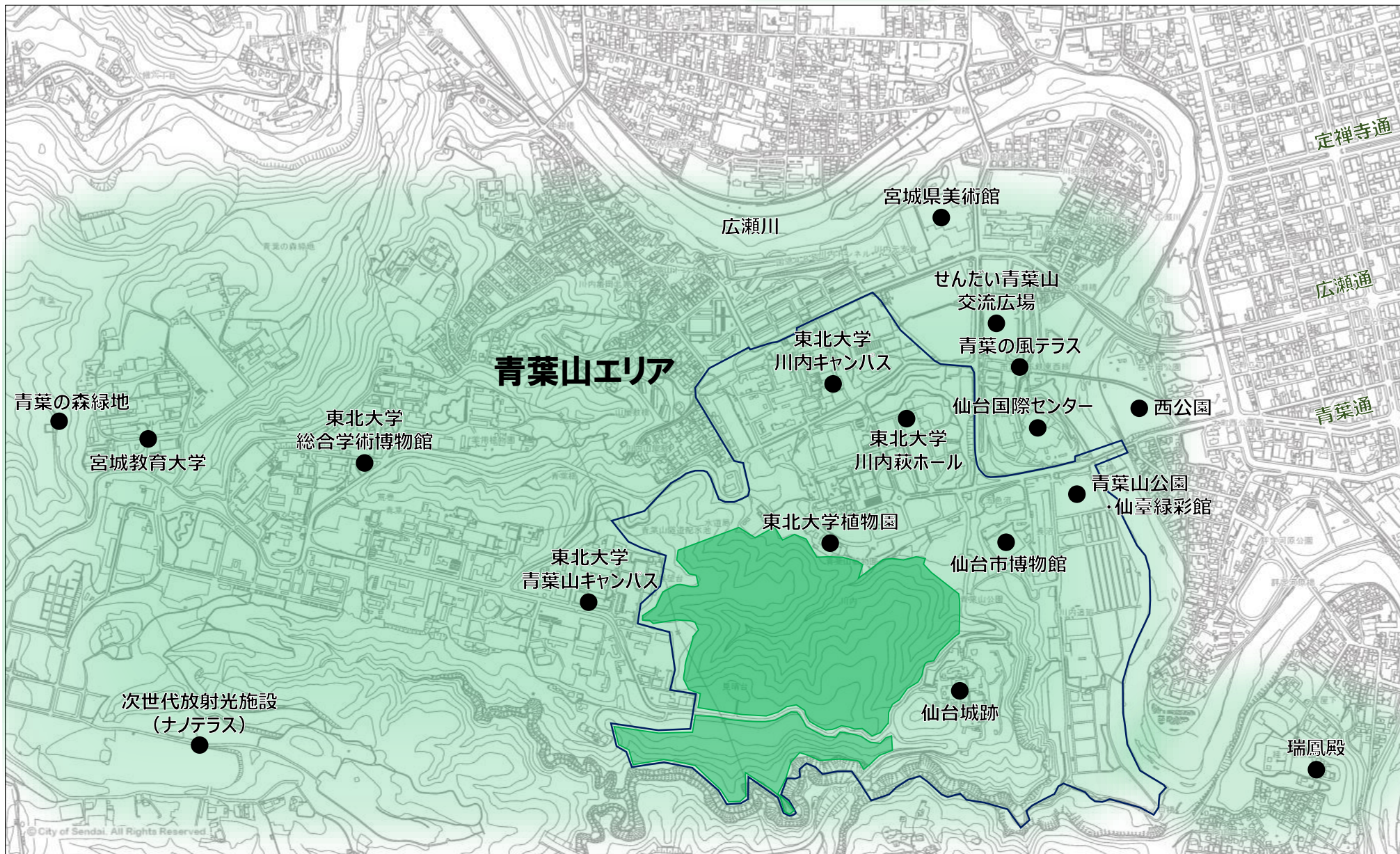
伊達政宗公が青葉山に仙台城を築いて以降、青葉山周辺は、豊かな自然や歴史が大切に守られながら、天然記念物「青葉山」の指定、「学都・仙台」や国際交流の拠点としての発展を経て、歴史、文化、観光、学術、自然などの様々な資源に恵まれた、本市が内外に誇り得るエリアとなってきた。

仙台はじまりの場所と言える仙台城跡をはじめ、本市の魅力をもっと高める様々なプロジェクトが進む一帯を、本ビジョンの対象である「青葉山エリア」とし、エリア全体の将来像を発信していく。

※エリア内にある主な資源、進行中の事業

仙台城跡、東北大学川内キャンパス・青葉山キャンパス、東北大学川内萩ホール、東北大学総合学術博物館、東北大学植物園、宮城教育大学、青葉の森緑地、次世代放射光施設（ナノテラス）、宮城県美術館、仙台市博物館、青葉山公園、仙臺緑彩館、仙台国際センター、青葉の風テラス、せんだい青葉山交流広場（音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設）、西公園、瑞鳳殿、広瀬川 等





3 青葉山エリアの歴史

(1) 青葉山エリアの起こり

青葉山は、慶長5（1600）年末に伊達政宗公が新しい居城として仙台城の縄張始めを行い、年明けから築城を開始した地であり、本丸南は竜の口溪谷、西は奥行き深い山林、東は断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害であった。また、政宗公は、仙台の末永い繁栄を願って「入そめて 国ゆたかなるみきり（砌）とや 千代とかき（限）らし せんたいのまつ（松）」と詠んでいる。仙台藩の国づくりにあたって、この地をこれまでの表記である「千代」から「仙台」に改め、千代に限らず無限の繁栄を期するという、政宗公の仙台に対する思いを伝えるものと考えられている。

仙台城の築城が着手されるまでは、のちに城下町となる地域は、未開発地であったが、築城を機に新たな城下町建設が始まった。特に城に近い川内地区や広瀬川を挟んだ片平地区には、後に上級家臣の屋敷が配置された。

政宗公は寛永13（1636）年に没し翌年に霊屋として仙台城の南東に位置する経ヶ峯（青葉区霊屋下）に瑞鳳殿が造営された。また、寛永15（1638）年2代目藩主伊達忠宗により二の丸の造営が開始され、藩庁としての主な機能は本丸からこちらに移されることとなった。大手門の建築時期は不明だが、遅くとも二の丸が藩庁として機能する頃には完成したと考えられている。



【伊達政宗和歌詠草「入そめて」】

市指定有形文化財。「むつ」と署名されていることから、政宗公が陸奥守に任ぜられた慶長13（1608）年以降の歌とみられる。

（仙台市博物館所蔵）



【奥州仙台城絵図】（正保2（1645）年）

市指定有形文化財。幕府の命を受け、作製された。現在の青葉山エリアには侍屋敷のほか、本丸や二の丸・大手門なども描かれている。本丸の北西に「青葉山」の文字が見える。

（仙台市博物館所蔵）

（２）明治期から戦後の青葉山エリア

廃藩置県後の明治4（1871）年、二の丸跡に陸軍の東北鎮台が設置された。仙台鎮台への改称を経て、明治21（1888）年には陸軍第二師団へと発展し、川内地区には第二師団司令部をはじめとする多くの軍事施設が置かれた。

仙台北は明治初期に取り壊されたほか、鎮台本営が置かれた二の丸の建物も明治15（1882）年の火災でそのほとんどが消失した。軍事施設が城下に広がり、仙台が軍都と称されるようになったが、昭和20（1945）年の仙台空襲により第二師団の建物に加え、昭和6（1931）年に国宝に指定された大手門等が焼失した。敗戦によって第二師団は廃止され、川内地区の旧第二師団跡地も米軍の進駐により駐屯地として使用された。

（３）学都の中の青葉山エリア

昭和32（1957）年、川内地区の米軍駐屯地が返還されると、その翌年に、東北大学の一部が川内地区へ移転し、昭和36（1961）年には、東北大学が片平キャンパスから青葉山へ工学部の移転整備を開始、昭和47（1972）年～48（1973）年には川内南地区へ文系学部が移転した。また、昭和43（1968）年には、宮城教育大学も現在の場所へ移転するなど、青葉山エリアは多くの学生が集う「学都・仙台」の重要な拠点となり、昭和41（1966）年にはエリア一帯の教育環境を保護するため、都市計画において特別用途地区（文教地区）に指定された。

また、昭和33（1958）年に開園した東北大学植物園の付近一帯は、江戸時代には御裏林と呼ばれ、樹木伐採が禁止されていたため植生がよく保存されており、園内には学術上貴重な動植物が多く見られ、昭和47（1972）年には同園を含む約40万㎡が国の天然記念物に指定された。



【八木山上空より青葉山エリアを望む】
昭和40年頃に撮影（推定）
資料提供：仙台市戦災復興記念館

（４）青葉山エリアの発展

昭和36（1961）年には、市制70周年記念事業として、青葉山公園東丸（三の丸）跡に仙台市博物館が開館し、昭和56（1981）年には宮城県美術館が現在の地に開館するなど文化施設が集積。さらに、平成3（1991）年には仙台国際センターが開館し、こけら落としとして日米市長商工会議所会頭会議が開催されたことを皮切りに、本市における国際会議会場の中心となり、市民の国際交流の場としての機能も担うなど、この地が本市の国際化推進をリードするエリアとなっていく。

また、仙台城は自然地形を利用した城郭のため、城の規模に対しては石垣が比較的少ないが、本丸北壁の石垣は、最大高さ17m、全長179mにおよび全国でも有数の規模と曲線美を誇っている。平成9（1997）年から始まったこうした石垣の改修工事や、大広間跡の発掘調査などからその歴史的価値が高まり、平成15（2003）年には仙台城跡が国史跡に指定されている。このほか、青葉山は平成27（2015）年に、次世代に残すべき自然環境として、環境省により「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されるなど、エリアの発展過程においても、歴史資産や自然が守り続けられてきた。

このように、歴史や文化、学術など数多くの資源が集積しているこのエリアは、本市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」と位置付けられ、本市の持続的な発展を支える重要な地となっている。また、都心からほど近いエリアでありながら、歴史的にも価値のある自然に恵まれたこの地は、仙台市民の心の安らぎの場であり、特別なエリアとなっている。



【仙台城本丸跡にある政宗公騎馬像】

初代の騎馬像は昭和10（1935）年に建立されたが、戦時中に金属供出のため撤去され、戦後、発見された胸像は博物館館庭等を経て、令和5（2023）年青葉山公園追廻地区に移設されている。現在の騎馬像は昭和39（1964）年に建立された2代目。



【五色沼】

日本におけるフィギュアスケート発祥の地とされ、昭和6（1931）年にはフィギュアスケートの全日本選手権も開かれている。

写真提供：（公財）仙台観光国際協会

年表：青葉山エリアの歴史

江戸時代 以前		明治		昭和												平成				令和						
		4年	8年	3年	20年		28年	32年	33年	36年	36年 ～ (1961 ～)	39年	42年	43年	47年	54年	56年	3年	15年	27年		31年	4年	5年		
(1600)	(1637)	(1871)	(1875)	(1928)	(1945)		(1953)	(1957)	(1958)	(1961)	(1961 ～)	(1964)	(1967)	(1968)	(1972)	(1979)	(1981)	(1991)	(2003)	(2015)		(2019)	(2022)	(2023)		
伊達政宗公が青葉山に仙台城の縄張始めを実施	政宗公の死後、経ヶ峯に霊屋として瑞鳳殿が造営	二の丸跡に東北鎮台（後の陸軍第二師団）が設置	桜ヶ岡公園（現在の西公園）が開園	東北産業博覧会、川内・桜ヶ岡公園などを会場として開催	戦災により大手門・脇櫓・瑞鳳殿が焼失	追廻地区に戦争罹災者のための応急簡易住宅の建設が開始（後に住民は地区外へ移転）	青葉山地区が緊急開拓委託事業地区に指定（後に開拓者は地区外へ移転）	青葉山公園が開園	戦後米軍が進駐した川内の駐屯地が返還	東北大学植物園が設置、東北大学の一部が川内に移転	仙台市博物館が開館（昭和61年同地に新築、現在に至る）	東北大学、青葉山キャンパスへの移転整備を開始	現在の政宗騎馬像が完成	大手門脇櫓が再建	宮城教育大学が現在の場所へ移転	青葉山が国の天然記念物に指定	瑞鳳殿が再建	宮城県美術館が開館	仙台国際センターが開館	仙台城跡が国史跡に指定	仙台国際センター展示棟、せんだい青葉山交流広場供用開始	第3回国連防災世界会議が仙台国際センターを主会場として開催	仙台市地下鉄東西線が開業	次世代放射光施設の整備に着手（令和6年度本格稼働予定）	青葉山交流広場への音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合整備方針を発表	第40回全国都市緑化仙台フェアが開催（予定）、仙臺緑彩館開館（予定）

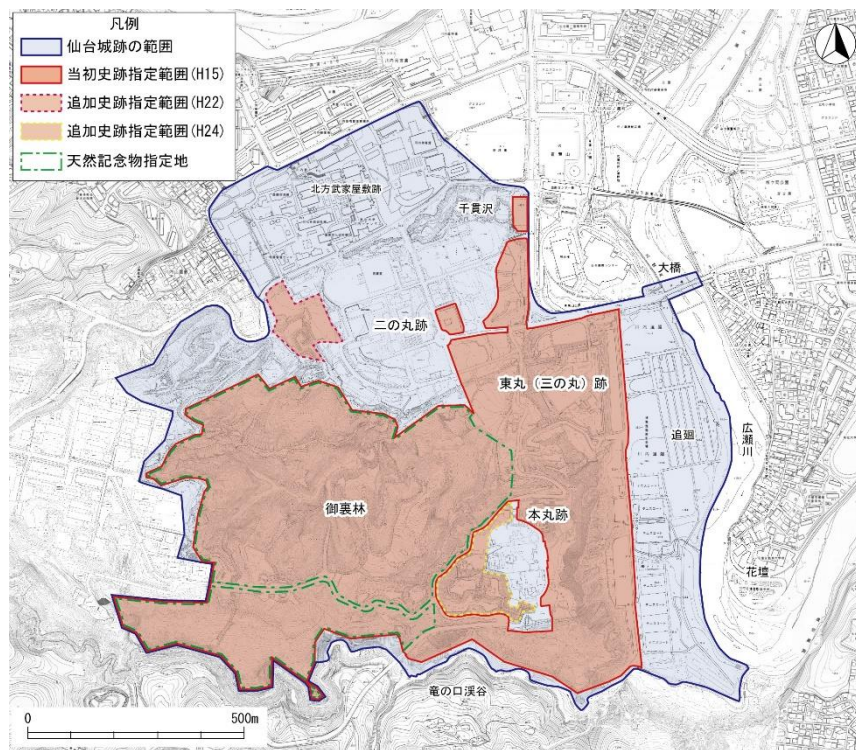
【コラム】天然記念物「青葉山」

本邦太平洋側の温帯林と暖帯林との接触地帯であり、面積約40万㎡の狭い地域の中に高等植物約700種、蘚苔類約140種が自生する。大部分は、モミを優占種とする美林で覆われ、その天然更新がよく見られる。モミは岩手県中南部にまで分布するがモミ林としては、青葉山が北限である。林床にはヒメノヤガラ、ムヨウランなどの腐生のラン科植物があり、同じく同種の北限にあたる。モミに着生するランの種類も豊富である。

また、シラカシ、アラカシ、ウラジロカシ、シロダモ、ユズリハ、タブノキ、モチノキなどの暖地性樹種に富み、太平洋側内陸部における集団分布の北限をなしている。

この森林には主なもので31科、125種の鳥類が生息または繁殖しており、竜ノ口溪谷に面する崖面にはチョウゲンボウが繁殖する。

このように自然林が、しかも大都市近郊に残存することはきわめて貴重であり学術上の価値が高い。現状、東北大学植物園として管理、公開されている。



「史跡仙台城跡整備基本計画」より

【コラム】 広瀬川

伊達政宗公が仙台城を居住地に選んだ理由として、南は竜の口溪谷、北は沢、西は奥行き深い山林、そして東は全面64mの断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害となっていることが理由のひとつと言われている。さらに、政宗公は河岸段丘の地形を巧みに利用して、四ツ谷用水を城下に導いたことで、広瀬川の水が本市の発展に大きく寄与することになった。

日本の多くの都市が、河川の下流域や河口域に発達しているが、本市は中流域の河岸段丘上に市街地が発達しているのが特徴である。

高度成長期には、急速な都市化の発展により水質の悪化や自然が失われるなど、広瀬川を取り巻く環境が大きく変わりつつあった。このようなことから昭和49年に「広瀬川の清流を守る条例」を制定し、市民と共に広瀬川周辺の自然環境及び景観の保全並びに水質の改善に努めてきた。

市民共有の財産となった広瀬川では、散策や芋煮会など市民が気軽にレジャーを楽しむ川としても親しまれている。



< 広瀬川の概要 >

- ・ 名取川水系 ・ 一級河川
- ・ 流路延長：約45km（関山峠付近から名取川合流地点）
- ・ 流域面積：約311km²
- ・ 規制等：広瀬川の清流を守る条例（1974年）
杜の都の風土を育む景観条例（1995年）

「広瀬川創生プラン2015-2024[中間見直し版]」より

第2章 青葉山エリアの現状等

1 青葉山エリアの現状

(1) 主な施設・進行中の事業 東西約3kmの範囲に多様な施設が集積しているほか、新たな事業も進行しており、更なる魅力や価値の向上が期待される。

①宮城県美術館



- ・昭和56(1981)年開館
- ・近現代美術、東北地方にゆかりのある作品、佐藤忠良記念館などが特色
- ・展示のほか公開講座などの教育普及事業、ギャラリーの運営なども実施
- ・リニューアルのため令和5(2023)年度途中から令和7(2025)年度途中まで休館予定

【実績】

年度	観覧者数
R1	108,719人
R2	182,877人
R3	142,552人

②仙台国際センター



- ・平成3(1991)年開館、平成27(2015)年には展示棟が完成
- ・6,000人規模の大規模催事が開催可能で、各種学術集会や平成27(2015)年には国連防災世界会議が開催されるなど仙台の国際交流・産業学術文化振興の拠点

【実績】

年度	催事件数	利用者数
R1	539	286,996人
R2	161	51,608人
R3	272	116,487人

⑩青葉の森緑地



- ・豊かな自然を満喫できる里山で、変化に富む散策路を整備
- ・自然観察会やトレッキングなどのイベントも開催

⑤東北大学総合学術博物館



- ・平成10(1998)年発足
- ・化石や鉱物、考古資料など貴重な標本を多数保管、展示

⑧東北大学川内萩ホール



- ・大学創立100周年記念として平成19(2007)年リニューアル
- ・最先端の音響学の知見に基づき豊かな音空間を実現

⑥東北大学植物園



- ・昭和33(1958)年設立
- ・藩政期は御裏林とされ、昭和47(1972)年には国の天然記念物に指定

⑦瑞鳳殿



- ・伊達政宗公の霊廟
- ・戦災により焼失するも、昭和54(1979)年再建
- ・再建に先立つ調査で遺骨、武具、文具類等多くの副葬品が出土

③仙台市博物館



- ・昭和36(1961)年仙台城東丸(三の丸)跡に開館
- ・国宝でユネスコ記憶遺産に登録された「支倉常長像」や伊達家寄贈文化財など約10万点を収蔵
- ・館庭には支倉常長や魯迅の碑などが設置
- ・令和6(2024)年3月まで大規模改修のため休館中(予定)

【実績】

年度	利用者数
R1	111,482人
R2	21,679人
R3	75,417人

④仙台城跡



- ・慶長5(1600)年に伊達政宗公が縄張り始めを行う。仙台城は明治初期に解体
- ・博物館のある東丸(三の丸)跡を含めて国の史跡に指定、御裏林である青葉山は国の天然記念物に指定
- ・瑞鳳殿等とともに日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」を構成
- ・伊達政宗公騎馬像、仙台城見聞館、青葉城資料展示館がある。眺望が豊かなことから、観光客はもとより市民も多く訪れている



⑪ 史跡仙台城跡整備



(出典：史跡仙台城跡整備基本計画)

- ・平成17年に策定した仙台城跡整備基本計画の内容を見直し、令和3～20年度までの計画を策定、史跡仙台城跡の整備と保存・活用を進めている
- ・事業計画期間（令和3～12年度）においては、調査、修景、登城路整備を3本柱として整備事業を行う。修景により歴史的景観と青葉山の自然環境が調和した眺望“政宗ビュー”の実現を目指す。また、大手門復元に向けた基礎調査等を進める
- ・史跡仙台城跡を、より城郭らしく地域の誇りと愛着を育む場となるよう整備を進める

⑫ 青葉山公園整備 ～仙臺緑彩館オープン～



「もりの市民広場」イメージ

(建設局資料より)

- ・藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる「杜の都のシンボル」となる公園を目指して整備
- ・国史跡指定地区、追廻地区、国際センター地区で構成
- ・エリアの玄関口となる「仙臺緑彩館」が令和5年4月26日開館予定。多くの方が憩い、集うことができる施設となるよう、七夕飾りや青葉まつりの山鉾などを常設展示するなど、観光交流拠点としての機能も備える施設となるよう整備中

⑬ 次世代放射光施設 「ナノテラス」 ～光イノベーション都市を目指して～



(写真提供：(一財)光科学イノベーションセンター)

- ・令和6年度本格稼働予定
- ・産業利用に大きく道を開き、情報通信や先端材料に加え、医療や環境エネルギー、食品などの分野でも活用が期待される
- ・地域経済への波及効果を高めるために、本市において先行施設等でトライアルユースを実施。地域企業に対する普及啓発に取り組んでいる
- ・関係機関と連携し、施設周辺での「リサーチコンプレックス」の形成を目指し、施設利活用が見込まれる企業などに対し、活用方法や本市の立地環境をPRするなど、誘致活動を行っている

⑭ 音楽ホール・中心部 震災メモリアル拠点 複合施設整備



(写真提供：仙台国際音楽コンクール)

- ・文化芸術の創造と発信の新たな拠点となる音楽ホールと、防災環境都市・仙台ならではの「災害文化」の創造を担う中心部震災メモリアル拠点の複合施設を、せんだい青葉山交流広場へ整備予定
- ・令和4年度、複合施設の整備基本構想の策定に着手
- ・基本構想策定後、令和5年度中に基本計画の策定に着手予定
- ・施設の整備により、周辺施設との連携のもと、新たな文化観光交流ゾーンの形成や広域からの集客、都心部も含めたまちの活性化が期待される

⑮ 第40回全国都市緑化仙台 フェア開催 R5.4.26～6.18



青葉山公園追廻地区イメージ



西公園南側地区イメージ

- ・昭和58年より毎年開催されている国内最大級の花と緑の祭典。本市では平成元年以来の開催
- ・青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区（公園2地区の周辺）をメイン会場とするほか、まちなかエリア会場、東部エリア会場等を設定。100万人の入場者を目標とする
- ・会場整備をはじめ、観光客誘致に向けた施策やイベントの検討など、開催に向けて準備を進めている

(出典：第40回全国都市緑化仙台フェア基本計画)

仙台市×東北大学 スーパーシティ構想



(まちづくり政策局資料より)

- ・東北をリードする都市として、大胆な規制改革や先端的なサービス創出など、チャレンジングな取り組みを進めている
- ・その一環として、東北大学や民間事業者と連携し、未来社会の先行実現を目指すスーパーシティ構想を推進
- ・スマートシティ化を通じて、地域経済の発展や市民生活の利便性向上、ひいては東北の課題解決へとつなげていく

(2) エリアへのアクセス

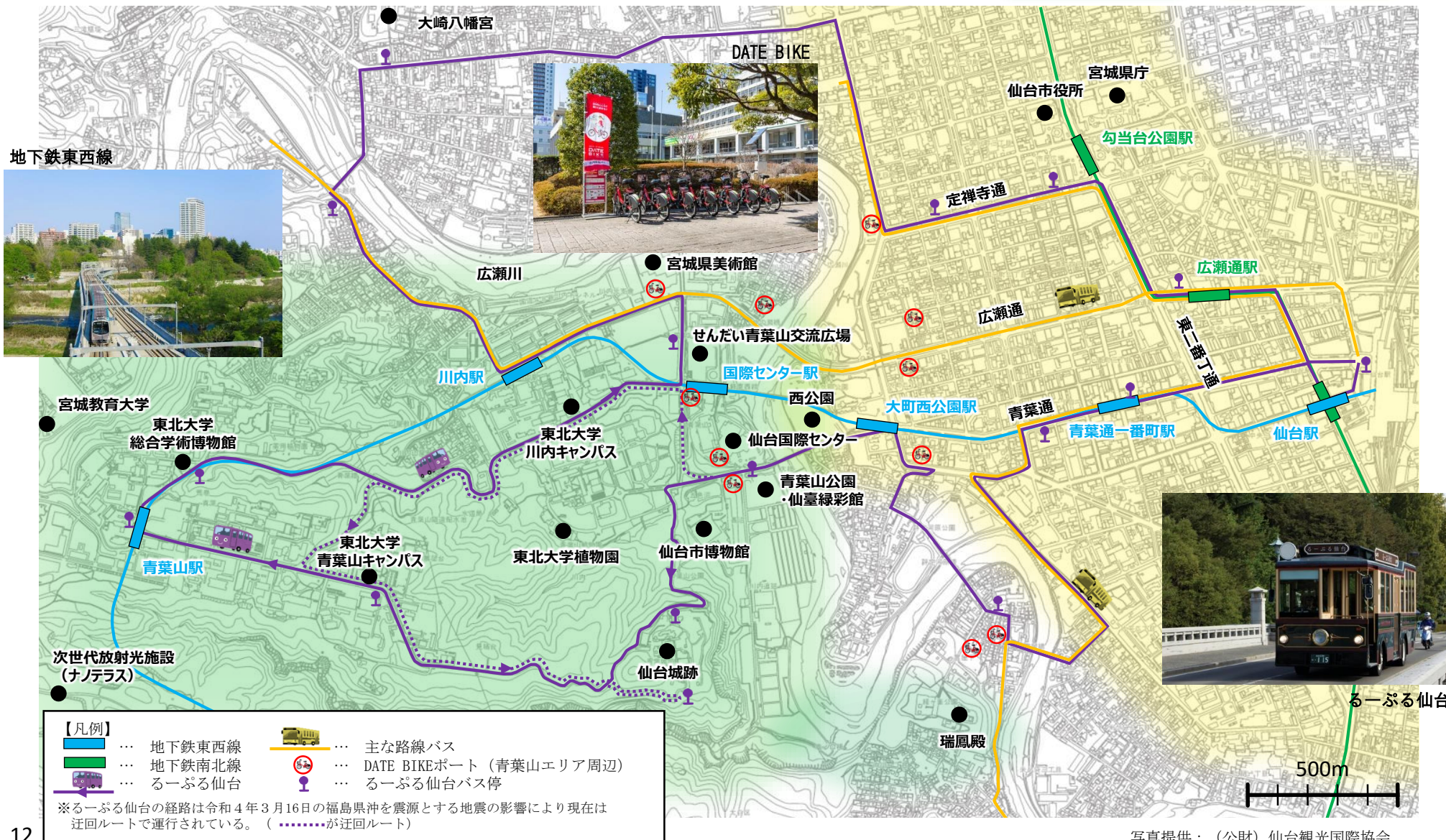
エリアは、地下鉄沿線であるほか、観光シティーブスの主要経路にもなっている。

交通手段	頻度	仙台駅からの時間
地下鉄東西線	5～18分間隔	5分(国際センター駅まで)
路線バス(川内方面)	1時間に2本程度	14分程度(川内駅まで)
路線バス(瑞鳳殿方面)	1時間に5～6本程度	11分程度(瑞鳳殿まで)

交通手段	頻度	仙台駅からの時間
るーぶる仙台	20～30分間隔	18分程度(博物館まで)
自転車	—	10分程度(博物館まで)
徒歩	—	30分程度(博物館まで)

青葉山エリア

都心



写真提供: (公財) 仙台観光国際協会

2 青葉山エリアの特性と価値、課題

(1) 青葉山エリアの特性・価値

青葉山エリアには、各種資源を有することによる多様な特性と価値がある。

■豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア

都心からほど近くにありながら、天然記念物青葉山、広瀬川など豊かな自然が広がるほか、史跡仙台城跡など歴史資産を有する。青葉山公園、西公園の整備により、憩いと安らぎの空間の一層の充実を図る。

(主な資源) 天然記念物青葉山、東北大学植物園、広瀬川、
仙台城跡、瑞鳳殿、青葉山公園、西公園、青葉の森緑地
(進行中の事業) 史跡仙台城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備

■文化芸術施設、教育・研究施設が集積する文教エリア

仙台市博物館、宮城県美術館をはじめとした文化施設、大学、高等学校等の教育施設が立地。国際センター駅北側には、文化芸術・災害文化の拠点として音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備を進め、文教エリアとしての充実を図る。

(主な資源) 仙台市博物館、宮城県美術館、東北大学、
東北大学川内萩ホール、宮城教育大学
(進行中の事業) 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備

■アクセスに優れた立地

エリア内は地下鉄沿線であるほか、るーぷる仙台が周遊しており、都心からのアクセスが至便。また、エリア内にDATE BIKEポートが複数あり、国際センター駅を基点とした移動などにも便利。

(主な資源) 地下鉄東西線、観光シティ
ループバス「るーぷる仙
台」、仙台コミュニティサ
イクルDATE BIKE

■「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点

東北大学、宮城教育大学が立地し、高度な研究が行われていることに加え、次世代放射光施設（ナノテラス）の稼働により、新たなイノベーションの創出と地域経済への波及効果が期待される。

(主な資源) 東北大学、宮城教育大学、
次世代放射光施設（ナノテラス）
(進行中の事業) 東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設（ナノテラス）周辺のリサーチコンプレックスの形成推進

■東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE（学会・国際会議等）拠点

東北大学、仙台国際センターを核として、グローバルMICE都市である本市のコンベンション開催拠点となっている。大規模学会等の開催時は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設との連携・協力を図るほか、青葉山公園（仙臺緑彩館）等のエリア内資源の活用などにより、MICE機能の強化を図る。

(主な資源) 仙台国際センター、東北大学川内萩ホール

■仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地

史跡仙台城跡をはじめ、瑞鳳殿、仙台市博物館等が立地する本市の主要観光地の一つ。新たな複合施設の整備、エリア内施設の連携による新たな取組みにより一層の交流人口の拡大が期待される。

(主な資源) 仙台城跡、瑞鳳殿、
仙台市博物館、
宮城県美術館



■ 情報発信

- ・エリアに関する情報提供に関して、「満足」と回答した市民の割合は2割にとどまっている
- ・エリアに関する市の事業やイベントに関する情報が市民に十分に届いているとは言えない

⇒ エリアに関する一層の情報発信により、エリアの魅力や価値の周知が必要

■ 移動環境

- ・市民の青葉山エリアへの移動手段は、自家用車の割合が約7割と最も多く、イベント開催時などには交通渋滞が発生する
- ・青葉山エリア内は高低差があり、エリア内の移動に制約がある

⇒ 交通渋滞対策や地下鉄等の公共交通の更なる利用促進など、エリア内及び都心とエリアの回遊性の向上が必要

■ 公共空間の利活用

- ・エリア内には、文化施設をはじめとした公共施設のほか、公園や川など豊かな公共空間が広がっている
- ・エリアに期待されていることのうち、「各種イベントの開催」の割合が高く、広瀬川の親水空間や、青葉山公園や西公園の活用も期待されている

⇒ エリアの強みである川や公園など公共空間の一層の利活用が必要

■ 滞在環境

- ・エリアに期待することでは、「飲食に関すること」の割合が最も多い
- ・より滞在を快適にする休憩スペースや飲食施設などが期待されている

⇒ 多様な目的で訪れる人々が快適に過ごせる滞在環境の向上が必要

■ 連携体制

- ・一つ一つの資源は充実し、それぞれが来訪目的になっているものの、エリア内外の施設・機関等が連携した取り組みは十分とは言えない

⇒ エリア内外の事業者、市民活動団体、大学、施設管理者、行政等が一体となった取り組みの推進により、エリアの魅力や価値、回遊性等の一層の向上につなげることが必要

第3章 青葉山エリアの基本的方向性

1 青葉山エリアのコンセプト

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」及び「目指す都市の姿」は、青葉山エリアの本質にも重なっている。こうした理念に、エリアの特性や価値を掛け合わせたものがエリアのコンセプトとなる。

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」「目指す都市の姿」（抜粋）

挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～

仙台藩初代藩主伊達政宗公が築き、現代にも通じる町割りの礎ともなった城下町をはじめ、このまちの歴史資産は、私たちの誇りです。連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、世界からも選ばれるまちを目指していきます。

目指す都市の姿

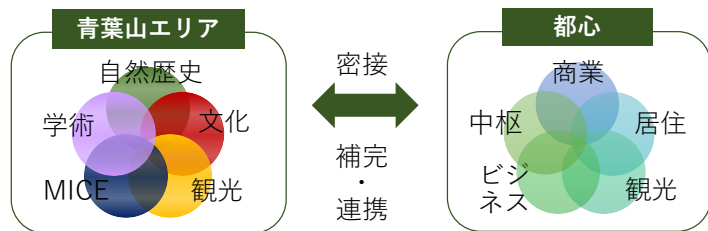
- 杜の恵みと共に暮らすまちへ
- 多様性が社会を動かす共生のまちへ
- 学びと実践の機会があふれるまちへ
- 創造性と可能性が開くまちへ

青葉山エリアの特性・価値

- 豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア
- 文化芸術施設、教育・研究機関が集積する文教エリア
- 仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地
- 東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE拠点
- 「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点
- アクセスに優れた立地
- 更なる価値を創出するプロジェクトの進行

青葉山周辺は、本市基本計画において「国際學術文化交流拠点」と位置付け、本市の持続的な発展を支える重要なエリアである。

商業やビジネス等の機能が集積する都心とは違った特性や価値を有しており、相互の機能を補完し連携することで、都市全体の魅力を向上させ、新たな価値や交流を創出する。



青葉山エリアのコンセプトの考え方

- ◆ 仙台はじまりの地という特別なエリアであり、豊かな自然や歴史を守り、受け継ぎながら、市民が愛着や誇りを感じる場であること
- ◆ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備や、大手門復元に向けた調査など、エリアに新たな価値や魅力を加え、本市の歴史と未来をつなぐプロジェクトが進行していること
- ◆ 市民や国内外からの来訪者が、歴史、文化、観光、学術、自然等の様々な資源に恵まれたこのエリアで、その価値を生かした多様な過ごし方や楽しみ方ができること
- ◆ エリアの資源を生かしながら、本市の主要な観光地としての魅力と回遊性を高め、交流人口の一層の拡大を図ることで、都心とともに都市全体の活性化を牽引していくこと

エリアのコンセプト

杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ ～ 特別な空間と時間を青葉山エリアで ～

目指す将来像

- 市民や来訪者を惹きつけ、仙台の観光交流をリードする
- 自然を生かし、杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ
- 歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる
- 学都の知と先端技術で未来社会を牽引する

2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性

エリアのコンセプトに基づく4つの目指す将来像を掲げ、その実現に向けた取り組みの方向性を示す。

市民や来訪者を惹きつけ、仙台の観光交流をリードする

ハード、ソフトの個々の資源の魅力を有機的に結び、掛け合わせることで、エリア全体が魅力にあふれ、季節を問わず市民や観光客など多くの人々の心を惹きつけている。

市民に憩い、安らぎ、学び、交流する場として親しまれるこのエリアは、国内外の来訪者にとっても巡りたくなる場となり、仙台を代表する観光地としての魅力を更に高めている。



<取り組みの方向性>

・観光資源の整備、事業の推進

(例) 仙臺緑彩館を核としたエリア内案内機能の強化、快適な歩行環境の整備、博物館・美術館のリニューアル、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備、史跡仙台北城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備

・エリアの資源を生かした観光コンテンツの充実、磨き上げ

(例) 旅行者向けガイド、体験コンテンツ等の充実、エリア内連携による企画



体験コンテンツ専用ウェブサイト「仙台旅先体験コレクション」

・エリア内の魅力を高める施設等の立地促進

(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備



エリアの魅力を生かしたカフェイメージ
出典：上野恩賜公園ホームページ

自然を生かし、杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ

天然記念物青葉山、広瀬川、青葉山公園、西公園など、豊かな自然が市民生活の身近にあり、日常的に親しみ、くつろぎ、語り合う場として大切にされている。

豊かな杜や水の恵みが、人々の暮らしを豊かにし、自然と共に生きる文化が杜の都のライフスタイルとして未来に引き継がれている。



<取り組みの方向性>

・憩い、自然に親しめる環境の整備

(例) 歩行環境の整備、休憩スペースの設置、ウォーキング・ランニングコースの充実

・自然に触れる新たな楽しみや学びの機会の提供

(例) 散策コースの紹介、天然記念物や史跡を学ぶツアーの実施、子どもの遊び場の充実

・広瀬川親水イベントの充実

(例) 民間団体のイベント開催への支援



広瀬川での親水イベント
写真提供：(特非)都市デザインワークス



歩行環境の整備(横浜市)
出典：国土交通省資料

歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる

史跡仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館など伊達政宗公以来の歴史を感じさせる拠点、宮城県美術館や音楽ホールなど文化芸術の拠点、災害文化を創造する震災メモリアル拠点等で、様々な

世代の市民による学びや創造的な活動が盛んに行われている。

旅行者等の来訪者は、各種資源に触れエリアの魅力を味わっている。



文化 観光

<取り組みの方向性>

- ・歴史や文化・芸術の資源を生かしたより深い学びや新たな楽しみの提供

(例) 博物館、美術館等の連携・企画、
エリア内ガイドツアー、校外学習、教育旅行メニュー等の充実

- ・音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設を拠点とした新たな文化の創造・発信



校外学習 イメージ



ガイドツアー イメージ



音楽ホールでの公演 イメージ



文化イベント イメージ

学都の知と先端技術で未来社会を牽引する

東北大学、次世代放射光施設（ナノテラス）、仙台国際センター等が多く、学生、事業者、研究者等に活用され、世界をリードする研究や、MICEの実績を通して、新たな交流やイノベーションが生まれている。



提供：東北大学

大学の知的資源や、エリア内で創出される先端技術が市民や来訪者にも開かれ、国内外の人々の学びや生活に寄与している。

MICE 学術 観光

<取り組みの方向性>

- ・エリア内施設や関連事業者との連携によるMICE受け入れ体制の強化とMICE参加者の回遊促進

(例) エリア内施設等調整の仕組みづくり、
エリア内施設を活用したユニークベニユー※、
エクスカーション※等の充実



ユニークベニユー会場としても活用
(青葉の風テラス)

- ・大学が有する知的資源、エリアで創出される先端技術を市民や来訪者に紹介し、活用される機会の充実

(例) 校外学習、教育旅行、企業向け研修や視察等の充実

- ・大学の知見や「防災環境都市」としての発信による、国内外の防災力向上への寄与



第3回国連防災世界会議
2015年3月



東北大学災害科学国際研究所
写真提供：東北大学

(※)
ユニークベニユー：会議・レセプション等の会場として活用できる歴史的建造物や文化施設

エクスカーション：大会開催中や開催後に企画される視察旅行、遊覧旅行

3 4つの将来像の実現に向けた回遊性の向上

4つの将来像の実現により、市民や国内外からの多くの人々が、賑わいや新たな文化を創造しているようなエリアとしていくためには「回遊性の向上」が重要である。

施設間の距離が比較的長く、高低差のあるこのエリアにおける回遊性の向上はもとより、都心部とのつながりや人の流れを意識した都心との回遊性の向上も図ることで、都市全体の魅力、活力の向上につなげていく。

<取り組みの方向性>

エリア内の回遊性向上

- ・ **エリア全体の一体的な情報発信の充実**
(例) エリア共通Webサイトの構築、共通デジタルサイネージの導入、エリア内共通サイン設置
- ・ **エリア内施設等の連携**
(例) 博物館、美術館等の連携・共通企画
- ・ **仙臺緑彩館のエリア内案内機能の充実**
- ・ **国際センター駅を基点としたアクセスの向上**
(例) 仙台城跡へのアクセス向上の検討、新たなモビリティの検討、コミュニティサイクルの充実
- ・ **快適な歩行環境の整備**
(例) バリアフリーエリアの拡充、施設間の移動をスムーズにする歩行者動線の整備、ウォーキング・ランニングコースの充実
- ・ **エリア内の魅力を高める施設等の立地促進**
(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備
- ・ **交通渋滞への対応**
(例) イベント開催時の施設間の連携、地下鉄等の公共交通機関の利用促進



新たなモビリティイメージ
出典：国土交通省資料



都心との回遊性向上

- ・ **交通事業者等との連携による回遊促進**
(例) 新たなモビリティの検討、MaaSの充実、都心循環バスとの連携
- ・ **居心地がよく巡り歩きたくなるようなウォーカブルなまちなか空間の形成推進**
(例) 定禅寺通活性化推進事業、都心地区のまちづくり団体などとの連携
- ・ **青葉山エリアと都心をつなぐ場の賑わい創出**
(例) 西公園、広瀬川等の活用、イベント等の活動支援
- ・ **エリア内施設と中心部商店街等との連携**
(例) 施設利用者への都心で利用できる特典の付与、MICE開催時のユニークベニューとしての都心の活用
- ・ **青葉山エリア、都心相互の情報発信の充実**
(例) エリア相互を回遊するルートの発信
- ・ **民間事業者、市民活動団体等との連携・支援**



MaaSの充実



西公園でのイベント



中心部商店街との連携
(サンモール一番町商店街)

第4章 青葉山エリアの将来

1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方

歴史や文化施設、大学などの学術施設、豊かな自然など、充実した資源や立地の良さから、市民は日常的にこのエリアを訪れ、また、観光やビジネスなどで訪れる多くの来訪者もこのエリアの魅力を存分に楽しんでいる。その楽しみ方、過ごし方は多様であるが、本ビジョンではこうした様子を一例として概ね10年後を見据えたイメージ図で表現した。

※「イメージ〇」は、22ページ以降に掲載するエリア内の各所での楽しみ方・過ごし方のイメージ図に対応

※イメージ図は現時点での想定であり、今後の事業の進捗等により変わる場合がある

I ~親子で過ごす~

- 地下鉄で国際センター駅まで家族で博物館へ
- 博物館鑑賞後、青葉山公園へ中央広場で子どもと体を動かして遊ぶ ⇒イメージ①

- 仙臺緑彩館のカフェでランチ

- 帰りは大橋を渡って、大町西公園駅から地下鉄で帰宅

自然を生きし、
社や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

II ~青葉山を楽しむ~

- 広瀬川河川敷のイベントに立ち寄り川を眺めながら軽食 ⇒イメージ②

- 国際センター付近から新モビリティで仙台城跡へ伊達武将隊等によるショーを楽しむ ⇒イメージ③④

- ライトアップされた登城路を散策しながら下り、音楽ホールのレストランで食事 ⇒イメージ⑤

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

自然を生きし、
社や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

III ~伊達な文化巡り~

- るーぷる仙台で瑞鳳殿へ

- 仙臺緑彩館へ移動し、歴史・自然ガイドツアーに参加東北大学植物園などを散策 ⇒イメージ⑥

- 再びるーぷる仙台で大崎八幡宮へ参拝後、都心へ移動し、中心部商店街で買い物

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

IV ~文化芸術を味わう~

- 地下鉄東西線で川内駅まで美術館で絵画を鑑賞する
- 音楽ホール等複合施設で震災メモリアルの展示を見たのち公演鑑賞 ⇒イメージ⑤

- 西公園のイベントを眺めながら定禅寺通へ鑑賞者特典のクーポンを使って仙台グルメを堪能

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

V ~アフターMICE~

- 地下鉄東西線で国際センター駅まで国際センターで会議

- 会議の合間に仙台城跡を見学

- 会議後、仙臺緑彩館を会場としたレセプションに参加 ⇒イメージ⑦

- 地下鉄で都心へ移動国分町の飲食店で参加者による懇親会

学都の知と先端技術で
未来社会を牽引する

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする

VI ~先端技術を学ぶ~

- 地下鉄東西線で青葉山駅へ次世代放射光施設（ナノテラス）へ新モビリティで移動、見学 ⇒イメージ⑧

- 解散後、グループ別自由行動

- ・国際センターからコミュニティサイクルでエリア内施設めぐり（共通チケット）
- ・仙臺緑彩館を起点としたガイドツアーに参加

- ・地下鉄で都心へ商店街めぐり

学都の知と先端技術で
未来社会を牽引する

市民や来訪者を惹きつけ、
仙台の観光交流をリードする